

くらしの文化WGの主な論点(案)

1. 生活文化の振興と文化発信への活用について

茶道、華道や囲碁、将棋などの生活文化については、ライフスタイルの変化、少子高齢化、経済情勢の悪化等に伴う愛好家、競技者人口の減少等が共通する課題となっている。我が国の伝統文化である生活文化を次世代へ継承するとともに、我が国の魅力を伝える文化として海外へ積極的に発信していく観点から、その方策を検討する

(論点例)

- 子どもたちが家庭や学校で生活文化にじかに触れる機会が近年減少してきている中で、こうした機会をどのように充実するか。
- 我が国の生活文化の海外へのアピールなど、どのように生活文化を我が国の文化発信に結びつけていくか。

2. 衣食住に関する文化の観光振興、地域振興、文化発信への活用について

我が国の衣食住に関する文化は、観光振興といった観点から魅力的な分野であり、こうした観点を重視しつつ、衣食住に関する文化の振興方策を検討する。また、文化発信の観点から、衣食住に関する文化についても積極的に海外に紹介することが重要であり、そのための方策についても検討する。

(論点例)

- 衣食住に関する文化が、観光振興、地域振興、文化発信に寄与する取組をどのように推進していくべきか。その際、文化的価値を保った上で、取組を進めるためには、どのような視点が必要か。
- 我が国の世界に誇れる衣(ファッション)、食(料理)、住(居住、滞在、往訪)などを地域ブランドとして振興・発信していくことをどのように考えるか。
- 伝統的な建造物や伝統工芸品等の衣食住に関する文化を、現代のライフスタイルの中において継承する取組にはどのようなものがあるか。それらの取組を推進するためには、担い手の育成や事業への支援など、どのような方策が考えられるか。また、それらの取組が継続的に行われるためには、どのような視点が必要か。

3. 新たな文化芸術創造都市の展開方策について

文化芸術の持つ創造性を生かした産業振興や地域活性化の取組が各地で進んでいるが、特に行政・芸術家・市民・企業等の連携の下に成功事例が出ている。さらに、自治体・関係者の情報収集・提供等を行い、都市間ネットワークの構築を進めながら、文化芸術の持つ創造性を福祉・教育・観光等の産業に横断的に活用し、地域課題の解決を図る取組も期待されている。こうした創造都市の持つ可能性をさらに引出し、新たな展開を図るための方策について検討する。

(論点例)

- 各地の芸術祭など、文化が地域の発展に寄与するような取組には、どのようなものがあり、それらをどのように推進すべきか。
- 創造都市の持つ可能性をさらに引出し、新たな展開を図るための方策としてどのようなことが考えられるか。
- 今後の我が国の成長分野として期待される創造産業としてどのような分野が考えられるか。また、今後、そのような創造産業の振興をどのように図っていくか。
- 創造都市における創造人材の役割をどのように考えるか。また、創造人材の集積方策など、創造都市の推進に向けて具体的にどのような取組が考えられるか。

4. 衣食住に関する芸術作品・資料のアーカイブについて

我が国の衣・食・住をはじめとする暮らしに関する文化は、国土の成立ち、歴史的経緯と相まって、独自の歴史風土・郷土・文化を形作ってきた。また、そうした文化の上に、戦後は、衣(ファッション)、食(料理)、住(建築)など世界に誇り得る発展を遂げ、世界で著名なデザイナー、料理人、建築家等を輩出してきた。

こうした芸術家によるファッション、建築設計等の芸術作品・資料は、現在では散逸の危機に晒されているものが少なくない。このため、こうした芸術作品・資料のアーカイブの現状を把握し、その必要性、定義、構築方法について検討する。

(論点例)

- ファッションのアーカイブ
- 建築設計図面、建築模型のアーカイブ